

岩の上です

っぽんぽん

コンビニで行列が出来ていたのは少し
うんざりした。

こんな田舎町で・・・。

半年だけ単身赴任へこの町へやってき

た。

ふと、休日にウォーキングへ遠くまで歩いていったのだが、田園地帯沿いの国道にあるコンビニで行列。

えっ！！？ここでっ！！？というような気持ちにはさすがになっただが、仕方なく並んで買ったおにぎりとおにぎりとおにぎりとペットボトルのお茶を食べながら歩いていた。

橋のそばへ通りかかる。

河川敷沿いへ回ろうとすると・・・

横断歩道の向こうにオレンジ色の影

が・・・・・・・・。

人ではない。

目をこすりよく凝らしてみても
と・・・・・・・・。

瞬間、風が吹いた。

俺はいつの間にか横断歩道を渡り、誰かと手をつないでいた・・・・・・・・。

自然と歩が前へ前へと動く。

川沿いを美女と歩いていた。

風の便り・・・・・・・・などは聞くが、風が
女体を連れてきた形だ。

河川敷。まだ舗装していない草が茂った

河川敷。

大きな岩があった。

平べったくてボコボコしている。

「私も同じだったわ。あなたが最初は桃色の影だったの……」

彼女は岩の上でそう言った。

風をきっかけに・・・・・・・・

というのはお互い様だったらしい。

おとぎ話のような出来事。

「この岩、なんか平べったいわね」

俺たちは笑い合った。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)